

就業体験やりがい実感

県事業 悩み抱える若者ら

他者とのコミュニケーションや就労に悩みを抱える若者17人が30日、3カ月間の企業インターンシップを終え、沖縄市内で修了式を迎えた。初日から悩まされた片頭痛を乗り越えたり、初報酬で家族を食事に招待したり。17人全員が次へのステップにつながる一歩を踏み出し、不安を自信に変えていった経験を振り返った。

対人関係に自信

メンバーは、就労支援を行う地域若者サポートステーション琉球・沖縄に登録し、大手書店チエーンやスーパー、建物や施設の管理

・警備、IT企業などで3カ月の訓練を積んだ。4年目を迎える県の事業で、今期の参加者は20代が中心。高校3年から4年間、ひ



きこもりを経験した22歳の男性はIT企業に通った。初日は帰宅後も緊張が抜けず、片頭痛に悩まされたが、仕事を続けることで徐々に緊張は和らぎ、多くの人が集まる社内での発表もこなすようになった。

男性は「働く達成感、やりがいを経験できた。成長した自分がとてもうれしくて自信が持てるようになった」と、受け入れ企業の同僚や支援者に感謝。高校時代に目指していた医療・福祉の道并希望し、看護師の資格取得に取り組む。

県立中部病院で施設管理や警備の仕事をした宮城拓也さん(22)「うるま市」は「仕事のイメージができず不安だったが、先輩や上司に時には優しく、時に厳しく支えられた」と感慨深げ。初めての手当で家族をすし店に招待し感謝されたことも、いい思い出となった。「また一緒に頑張っていきたいと思います」と仲間呼び掛けた。

就職決定は1人、内定7人、面接予定が4人。5人は引き続き仕事を探す。

3カ月間のインターンシップを終え、仲間や支援者と笑顔で修了式を迎えた若者。30日、沖縄市高原・沖縄市福祉文化プラザ